

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット1)

Table with 2 columns: Field Name (e.g., 事業所番号, 法人名) and Value (e.g., 0190501361, 医療法人 重仁会).

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。
基本情報リンク先URL: https://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&Jivg_osyoCd=0190501361-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 2 columns: Field Name (e.g., 評価機関名, 所在地) and Value (e.g., 企業組合グループ・ダイナミックス総合研究所 介護調査部).

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎日体操を行なっています。脳トレや塗り絵等のレクリエーションを提供しています。毎月行事を行なっています。隣接の病院が運営母体である事から入居者様の体調不良の際は内線やメールで連絡を取り、早めの対応をとれるようになっていきます。グループ内の病院看護師や老健と連携しており、専門職の意見を取り入れたケアに努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、札幌市地下鉄東西線大谷地駅から徒歩圏内の利便性のよい住宅地にあり、法人グループの母体病院に隣接した2階建て2ユニットのグループホームである。建物内は落ち着ける配色を施し、廊下は車いすが交差できる程幅広く全体的にゆったりとした作りである。運営母体は医療法人で、地域医療に長く貢献しており、地域では欠かせない病院となっている。事業所は、法人母体の病院に隣接しており、体調不良の時は、内線電話や電子メールでの連絡も可能とし、24時間体制の医療連携を構築している。また、災害対策の緊急体制、法人内の研修の実施等もグループ内の連携が築かれている。事業所は、コロナの影響で外出する機会は少ないが、法人内の保育園の来訪などの地域との繋がりもある。入居者は、いつもリビングで寛いで過ごしており、笑顔で明るい雰囲気である。法人母体の病院に併設し、24時間体制の医療連携を構築している事業所としてこれからも期待したい。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: Item No., Item Description, Self-check Results (1-4), and Achievement Results (1-4). Rows 56-62.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念は施設玄関に掲示しています。毎月のケア会議の時に唱和して実践できるように努めています。	事業所の理念を事業所の玄関に掲示し、利用者やご家族様にも周知するよう努めている。職員は、毎月のケア会議の最後に唱和することで、職員間で共有し実践につなげている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との交流は行っていない。法人内の保育園の子供たちが来てくれることもあります。	コロナの影響により、町内会の活動が実施できていないため、地域との交流は少ない状況にあるが、感染予防に留意しながら法人内の保育園の園児の訪問交流を実施し、地域との交流を継続するよう努めている。	コロナの影響により、地域との関係性が継続できていない。今後、町内会や民生委員、老人クラブなどとの関係性を築き、事業所が地域の一員として日常的に交流できる体制づくりを期待したい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナの影響で2か月に1回行っていた認知症家族の会が開催できず、家族の会の関係者の皆様に書面で活動内容をお伝えしています。			
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回行っていた、運営推進会議はコロナの影響で行えていません。事業所の現状報告を書面にてお伝えしています。ご家族様へご連絡させていただいた時に現状をお伝えしてご意見が頂く事もあり、スタッフと共有してサービスに生かせるよう努力しています。	コロナの影響により、運営推進会議は、参加予定者であるご家族様や民生委員などへ現状報告を書面にて行っている。意見の反映に関しては、ご家族様への電話連絡の際や、来訪された際に聞き取り、職員へ伝え検討するようにして、サービス向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターへ2か月に1回現状報告を郵送にて報告させて頂いています。社協のボランティアの受け入れ相談など、協力関係を気づくようにしています。	運営推進会議の内容を地域包括支援センターへ定期報告を行っている。社協との連絡に関しては、ボランティアの受け入れ相談を継続し、協力関係を築くよう取り組んでいる。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月毎に身体拘束について話し合いをして会議録を作成している。職員一人一人が拘束を理解して身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	身体拘束適正化委員会を設置し、3ヶ月に1回開催して検討会を行っている。研修会は法人主催によるWEBでの研修を実施し、不参加の方へは資料を配布し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	会議録の様式が統一されておらず、作成者ごとに様式が違うため見返す際ににわがりにくい会議録になっている。統一した様式での記録を残すようにし、振り返る際に誰もがわかる資料作成ができ、身体拘束を正しく理解できる体制づくりを期待したい。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職場内研修や勉強会などで虐待の知識を学び普段の声かけも職員同士で注意して防止に努めています。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所内研修で勉強会を実施しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行うように心がけています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会やお電話時の意見を聞き入れて改善に努めています。ご家族様面会時に近況報告をしてご家族様とコミュニケーションを図るよう努めています。	ホーム便りを2ヶ月に1回発行し、面会の際にて、ご家族へ運営状況の報告をしている。また、ご家族とのやり取りは、家族連絡簿に記録して職員へ周知してご家族の意見を反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議や勉強会でスタッフの意見を聞き、できるだけ反映するように努力しています。	ユニット会議を月1回開催し、各職員に意見を募り、意見を聞く機会を設けている。また、業務中に職員とコミュニケーションを図り、意見を聞くようにしている。今後、法人主催での個人面談を実施する予定となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	処遇改善交付金を通じて、給与水準の適正化を図ったり、パースデー休暇を設けて福利厚生者の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	希望や特性に応じた研修への参加を促しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	オンライン研修などに参加して交流の場を設けています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	表情や行動の観察を行い、傾聴しながらその方の思いを汲み取れるよう努力しています。安心して頂けるような声をかけています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時やお電話の際に要望を聞き、職員間で共有して関係作りに役立てるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様とご家族様のお話をする中で思いを受け止め、必要な支援を見極めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様とレク等を楽しみながらコミュニケーションを図り、信頼関係を気づけるようにしている。困りごとがあった時には話を聞き、一緒に解決できるように努めています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々入居者様の様子をお伝えして相談しながら共に支えていく関係を気づけるように努めています。希望に応じてオンライン面会を提案させて頂いています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの影響の為、玄関先でガラス越しの面会になっていますが、希望される方には対応をさせて頂いています。	事前予約と時間の制限はあるが、玄関先での面会を実施し、ご家族や友人との関係が途切れないように支援に努めている。また、希望者はまだいないが、オンラインでの面会も実施できる準備はしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士で会話をされることはあまりありません。スタッフが声をかけて場を和らげたり、レクリエーションを通してなじみの関係になれるように努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されたご家族様より相談事があり、支援をさせて頂いています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向を聴きながら希望に沿えるよう職員で話し合い検討しています。	日常生活の中で、本人の思いや意向を確認し、その内容を月1回開催のケア会議にて報告し、利用者の希望に添えるよう職員で検討し把握するよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	関りの中で馴染みの暮らし方を把握し、個々の生活環境を大事に対応している。これまでのサービス利用の経過把握は直近はできているが、それ以前はできていない事がある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の様子を観察し、記録し、申し送りを正確に行うことで職員全員で本人の現状の把握を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3~6か月毎にカンファレンスを行い、現状確認と課題について話し合いを行っている。カンファレンス以前にケアチェックや心身状態の変化などを確認し、モニタリングを行い、カンファレンスでの意見を反映し計画書を作成しています。	ケア会議内でカンファレンスを行い、職員全員で介護計画の見直しを行なっている。定期的なアセスメント、モニタリングを実施し、その内容をカンファレンス内での意見を聞き、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カンファレンス前にケアチェック表を確認し、変更点や注意すべき点等の記入を行っている。また、普段と違った様子があれば記録して全員で共有している。ケアチェック表と介護記録は計画書見直しに活かされている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	忙しいご家族様も多い為、身の回りの生活用品はご家族様と相談の上、代理購入のサービスを行っている。又、突発的は受診や買い物についても相談の上1番良い方法を提案して対応する事も多い。コロナで面会ができない為オンライン面会を開始しました。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事の参加はほとんどありませんが、訪問利用サービスを2か月に1度活用して暮らしを楽しみ、清潔にできるよう支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回の往診を受けています。体調変化があった場合は看護師や協力医療機関の医師に連絡して支持を仰いでいます。	かかりつけ医による月1回の往診を行い、体調管理をしている。他科への受診は、ご家族の協力も得ながら送迎し、適切な医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様の体調の変化は看護師へ報告して支持を仰いでいます。不在時は電話で操舵できる体制を整えており、より良い対応ができるように努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様が入院された際はお見舞いに行かせて頂いています。入院時はサマリーを通してその方の情報を職員で共有をしてケアに役立てています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合について説明させて頂き、ご本人様やご家族様の意向を記入して頂き、24時間の医療連携体制で重度化した時の支援に取り組んでいます。	重度化や終末期の対応については、入居契約時に具体的は状況について説明し、ご家族の同意を得ている。重度化した場合は、改めてご家族へ連絡し、24時間体制の医療連携で支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを作成し、緊急時に役立てています。AEDを設置して緊急時に使用できるように講習会を行っています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を行っています。災害時に備えて水等の備蓄をしています。賞味期限を確認しながら、入れ替えを行っています。	火災の避難訓練は、日中・夜間想定にて年2回定期的に行っている。床下収納にて備蓄や備品を保管して、食材係が期限を確認する体制を整えている。	BCPの作成をするとともに、BCPに基づいた避難訓練及び備蓄の確認等ができ、全職員が災害対策に関する知識を身につけられる体制づくりを期待したい。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の人格を尊重し、一人一人に合わせ、本人様が理解しやすいような言葉かけをしています。	利用者ごとにその利用者にあった声掛けをしている。人格の尊重とプライバシーについては、接遇研修を定期的に行っており、日々の業務の中で都度声掛けや言葉使いなど注意しながら対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話の中で、入居者様と職員間で信頼関係の構築を意識し、入居者様が話しやすい雰囲気づくりを心がけています。自己決定が難しい方には決定しやすいように提示をして希望に添えるように支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	状況によっては職員の都合を優先することもあるが、入居者様、個々の体調に合わせて休息を取ったり、レクリエーションで本人様から希望がある時は希望に添えるよう心がけています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問理美容を利用されています。ご自身で選択できる方はお好みの服を選ばれています。選択できない方は選択しやすいような提示をする事で支援しています。整髪や髭剃り等も出来る限りして頂き、手が届かない所は支援させて頂いています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節に合った食事を提供させていただいています。食前にテーブル拭きをしてくださる方もおります。食後に食器拭きを手伝ってくださる方もおります。	利用者の身体状況に応じて、テーブル拭きや食器拭きを職員と一緒にこなしている。食事は外部委託にて提供しているが、日常生活の中で利用者の好みを聞き、食事提供に反映するよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	担当医師や看護師に相談して食事量や形態を変えて栄養や水分の確保をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯や歯の仕上げ磨きを行い、残渣物が残らないようケアを行っています。毎月歯科医より口腔ケアを行う際の助言を頂き、職員で共有してケアに活かせるように努めています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレでの排泄をして頂けるよう声かけや誘導を行っています。立位が難しい方には介助しています。	排泄表にて利用者それぞれの排泄パターンを職員間で共有し、トイレでの自立した排泄に向けた支援をしている。立位保持が困難な利用者はベッド上にて排泄の介助を行なっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事形態、水分の摂取に応じた水分量の把握をしています。下剤(液体、坐薬)の調整を行いコントロールを促しています。毎日体を動かすことも取り入れています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	週2回入浴していただいておりますが、個々のタイミングで入浴することは出来ず、決められた時間内で入浴して頂いております。浴室や脱衣室を温めたり、個人に合わせた湯温にして支援しています。	入浴は10時～15時と決められた時間の中で、利用者ごとのタイミングで週2回入浴できるよう支援している。浴室は1階に機会浴のため、2階の利用者の中で身体機能に応じて1階の浴槽を使用できるよう検討している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	足の浮腫みや臀部状態、体調にあわせて居室で休んで頂いております。不安な様子がみられる時は安心して頂けるような声をかけるよう努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬表を確認している。理解できないときは看護師に確認しています。一人ひとりの内服方法に沿って(とろみ、手渡し、口に入れる)服薬支援させて頂いております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活での家事や手仕事(洗濯たたみ、新聞たたみ等)を行って頂いています。計算や文字の練習、折り紙等のレクリエーションを行って頂いている。全ての方への支援は出来ていません。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎年外出行事を企画していましたが、今年はコロナの為、感染予防の為行えていません。施設前の小学校の運動会の練習などの見学で外気浴を行っています。	コロナの影響で外出することは出来ていないが、近隣の小学校で開催している運動会の練習を見に行くなどして可能な範囲で外気浴を行なっている。今後、コロナの状況が落ち着けば、外出できるよう計画をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金は金庫で保管し必要に応じて職員が支払いをしています。年に1度の買い物レクも中止となり、お金を使用する機会を提供することはできませんでした。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時は電話やご家族様へのお手紙をポストへ投函する支援は行っていましたが、本人様からの要望は聞かれておらず、行えていません。ご家族様からのお手紙はご本人にお渡ししています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔な空間であることはもちろん温度管理等過ごしやすい環境を心がけています。入居者の方と一緒にレクリエーションで塗り絵や季節を取り入れた作品を飾っています。	共用空間は、広くゆったりしており、吹き抜けもあり採光や風通しもよく、明るい室内である。また、1階と2階の壁の色は異なるが、行事の写真や自然な飾りつけが季節を感じる。定期的に換気も行い、温度や湿度の管理も行っており、利用者はリビングで寛いで過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居様一人一人が過ごしやすいようリビングでの席の配置を工夫しています。入居者様の状態やトラブルがあった場合は席替えを検討し過ごしやすい環境を心がけています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様の写真や手紙、レクリエーションでの作品を飾っています。又、週に1回居室清掃とシーツ交換を行い環境整備を行っています。	居室には、収納クローゼットや洗面台、ベッドが備え付けで設置してある。利用者は、使い慣れた家具や馴染み物を持参して、それぞれの利用者が居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、トイレ、浴室等わかりやすく大きく表示しています。安全に歩行できるよう手すりも設置しています。		